

令和6年9月20日

白老町議会
議長 小 西 秀 延 様

産業厚生常任委員会
委員長 森 哲也

所管事務調査の結果報告について

本委員会は、所管事務調査を終了したので、その結果を次のとおり報告します。

記

- | | | |
|---|---------|---|
| 1 | 調 査 事 項 | (1) 常任委員会
ウポポイを核とした観光振興について
(2) 分科会
一般社団法人白老観光協会との懇談 |
| 2 | 調査の方法 | (1) 常任委員会 事務調査・現地調査
(2) 分科会 懇談 |
| 3 | 調 査 日 程 | (1) 常任委員会
令和6年7月12日(金) 現地調査
交流促進バス「ぐるぽん」
令和6年8月21日(水) 事務調査
(2) 分科会
令和6年8月8日(木) |
| 4 | 出 席 委 員 | |
| | 委 員 長 | 森 哲 也 |
| | 委 員 | 水 口 光 盛 |
| | 委 員 | 氏 家 裕 治 |
| | 委 員 | 前 田 弘 幹 |
| | 副委員長 | 飛 島 宣 親 |
| | 委 員 | 田 上 治 彦 |
| | 委 員 | 西 田 祐 子 |

5 説明のために出席した者の職・氏名

経済振興課長	三 上 裕 志	経済振興課主査	片 岡 良 介
経済振興課主査	吉 田 翔 一	経済振興課主事	荒 大 樹

6 分科会懇談のため出席した者の職・氏名

一般社団法人白老観光協会との懇談

常 務 理 事	渋谷 和 憲 様
事 務 局 長	千葉 勝 宏 様
事務局次長	前 田 真 利 様

7 職務のために出席した者の職・氏名

主 幹	小山内 恵	一般事務職員	白 綾 美 紀
-----	-------	--------	---------

8 調査結果

(1) 常任委員会

【町の現状について】

① 白老駅北観光商業ゾーンについて

地域経済の活性化や観光振興の拠点として、観光インフォメーションセンター「ポロトミンタラ」が運営されており、町内の周遊性向上を図る拠点となっている。

また、ポロトミンタラフェスティバルやしらおい牛肉まつりの会場としても活用され、賑わい創出の拠点にもなっている。

民間活力導入区域は、ウポボイ開設以前から問い合わせはあるものの企業の進出には至っていない。

② 大町・東町商店街について

最盛期は約 90 店の小売店や飲食店などが並ぶ商店街であったが、国道バイパス化により商店街の交通量が減少したことなどにより、店舗数が減少し、空き店舗が増加している。

商店街の後背地である大町、高砂町、東町の地域は高齢化率が高いことや、白老町に来訪した観光客の周遊性を高める観点からも、商店街の活性化が求められている。

③ 交流促進バス「ぐるぼん」について

ウポボイ周辺における町民や来訪者の回遊性を高め、アイヌの方々をはじめとした町民及び来訪者にとって利便性の高い地域内交通ネットワークの形成を目的に運行されている。

運行当初は新型コロナウイルス感染症の影響により利用者の伸び悩みがあったものの、令和 4 年以降はインバウンドの来訪者も含め利用者は増加傾向にある。

【課題について】

ウポポイの開業は、国内外からの交流人口の増加や町内の観光振興につながる絶好の機会である。白老町においても第6次総合計画においてウポポイ等を活用した観光振興と交流人口の拡大を重点施策として設定している。

さらに下位計画として、商業・観光振興計画を策定し、ウポポイを核とした観光振興策を行っている。

また、ウポポイの開業効果で観光入込客の増加が見込まれているところではあるが、繰り返し訪れたいくなるようなまちを目指して町内の魅力を発信し、地域内において経済効果を高めることが重要である。

しかし課題として、民間活力導入区域の活用が進んでいないこと、大町・東町商店街における空き店舗が多く日曜・祝日・夜間に営業している店舗が少ないこと、周辺に宿泊施設が少ないため白老町に訪れても通過型観光となる傾向が強いことが考えられる。

交流促進バス「ぐるぼん」は、利用人数は増加傾向ではあるが、乗車率で換算すると低い状況である。地域の公共交通としての活用か、観光周遊バスとしての活用か認識に相違があり、地域の足としての延線や利便性向上を前面的に対応していくと、観光周遊バスとして機能しなくなる可能性がある。

また、車両の経年劣化や破損等が発生し、再リース時に懸念が残るだけでなく、アイヌ政策推進交付金を活用しており、交付金が活用できなくなった場合の検討が必要である。

【委員会意見】

第1に、白老駅北観光商業ゾーンの賑わい創出を図るべきである。具体策として、ポロトミンタラに飲食スペースの拡充や、民間活力導入区域の活用方針の見直しが必要であり、民間企業の進出を促進するためには、民間活力導入区域の上下水道などのインフラ整備は行政が行うべきである。

また、白老駅北観光商業ゾーンの活性化は、ウポポイの誘客促進にもつながると期待できることから、国に支援を要望し財源確保に努めるべきである。

第2に、大町・東町商店街の活性化を図るべきである。具体策として、事業所との連携強化を図り、活用できる補助制度の周知や制度利用のサポートを徹底していくべきである。

また、まちづくりとして、大町・東町商店街の空き店舗の活用促進や駐車場を確保すべきであり、それらを実施するうえでは、空き店舗の所有者や白老町商工会等との連携をより強化していく必要があると考える。

第3に、地域全体の公共交通の充実と、利便性の向上を図るべきである。交流促進バスの継続には課題もあり、将来的にはドア・ツー・ドアが理想であることから、段階的な政策転換が必要であると考えられ、核となる人材や部署を設置するべきである。

また、ウポポイに関連する駐車場の在り方の見直しが必要である。具体策として、大型バス第1駐車場を一般駐車場と併用できるようにすべきである。

それには、大型バス第1駐車場トイレの修繕と横断歩道の設置が必要となるが、ウポポイを核とした観光振興を図るうえで重要な課題であり、積極的に取り組むべきである。

(2) 分科会

産業厚生分科会は、一般社団法人白老観光協会との懇談を実施した。その内容については、別紙活動報告書のとおりである。

産業厚生分科会の活動報告書

令和6年8月21日

産業厚生常任委員会

委員長 森 哲也 様

産業厚生分科会

主査 飛島 宣親

本分科会は、委員会の広聴活動として下記団体との意見交換を終了したので、以下のとおり報告いたします。

団体名：一般社団法人白老観光協会（参加者3名）

日程・会場	令和6年8月8日 第1委員会室 午後1時30分～午後3時30分
懇談テーマ	1. 「ウポポイを核とした観光振興」及び「団体の活動状況」の現状と課題 2. 議会や行政への意見・要望等
出席委員名	主査 飛島 宣親 副主査 森 哲也 委員 水口 光盛 委員 田上 治彦 委員 氏家 裕治 委員 西田 祐子 委員 前田 弘幹
意見・要望事項	下記のとおり
活動報告 (処理・対応含)	1. 「ウポポイを核とした観光振興」及び「団体の活動状況」の現状と課題 ・ウポポイ年間来場者目標100万人に対し、令和4年36万人、令和5年33万人と目標達成に至っていない。 ・ウポポイの来場者数の減少は、観光協会が運営するポロトミンタラの入り込みにも影響しており、厳しい状況が続いている。 ・大型バスの駐車場の運営を観光協会で行っているが、団体旅行の減少など旅行形態の変化に伴い利用が低迷しており、財務的な課題となっている。 ・外国人観光客は令和4年1万数千人から令和5年5万人に増加、今後は欧米系の層をターゲットとしたアドベンチャートラベル的なものの提供を検討している。

	・令和6年3月の「ウポポイ誘客促進戦略」策定を受け、官民一体となってウポポイを核とした観光振興を図ることとし、白老町、道内、道外、国外、教育旅行の5つの分類ごとに誘客施策の方向性や主要な誘客施策を定め、取り組んでいる。 ・観光協会としても、誘客に向けウポポイとの連携事業のほか単独事業も提案していきたい。 ・ポロトミンタラはシーズン以外の入り込みが少ないことから、年間を通して集客できるよう白老町の魅力を発信するなどPRを強化していきたい。 ・大型バス駐車場のトイレが一部しか利用できず不便な状況であるが、修繕には多額の費用が見込まれる。 2. 議会や行政への意見・要望等 ・通過型にならないように、再開する民間ホテルや虎杖浜温泉等との連携を図り年間を通して白老町に来てもらえるよう、行政と協力してPRしていきたい。 ・地域DMOの登録を生かし、行政や各関係機関と連携して企画運営・戦略的取組などを充実させていきたい。 ・事業を運営する上で、活動資金も人材も不足している。補助金や人材の継続的支援が必要である。 ・ポロトミンタラは、大型バスを駐車できない、食事が提供できないなどの課題がある。施設・設備の改善のほか、「道の駅」の実現に向けて継続して声を上げていく。行政にも前向きに検討してほしい。 ・キャンプ場の指定管理事業、わかさぎ釣りは比較的善戦しているが、駐車場の運営と物販は苦戦している。特に大型バス駐車場の運営については、負担軽減措置などの支援策を検討してほしい。 3. まとめ 観光協会からは、ウポポイを核とした魅力発信の方策が示される一方、協会事業推進のための支援、そして道の駅を含む施設環境整備が求められている。 民間活力導入区域及びチャレンジショップの活用、トイレ施設を含む大型バス駐車場の整備など、ポロトミンタラ周辺の駅北地域のグランドデザインを早期に示し、賑わい・産業創出をかけたまちづくりとして、さらなる事業展開に注力すべきである。
--	---

